

一部サービスの再開

新型コロナウイルス感染拡大防止のため閉館しておりましたが、予約資料の貸出のみ再開します。

- * 資料の閲覧（新聞・雑誌含む）、閲覧机、コピー機、インターネット端末、学習室等の利用はできません。
- * 予約資料の受取は、メール・電話などで連絡をお受け取りになってからお越しください。
- * 来館される方は、マスクの着用、手指の消毒など感染防止策をお願いします。
- * 発熱、咳など風邪症状のある方は、来館をご遠慮ください。

- 再開するサービス
- ① 閉館以前に受付した予約の確保資料の貸出：5月19日（火）から
 - ② 新たな予約の受付開始、確保された予約資料の貸出：5月26日（火）から
 - ③ インターネット予約の受付開始：5月26日（火）午前0時から
 - ④ 貸出カードの新規登録、再発行の受付：5月26日（火）から

開館時間： **本館** 午前10時～午後7時（土・日曜は午後5時まで） **分館** 午前9時～午後5時
休館日： 月曜日（桜ヶ丘分館は5月中の土・日曜は休館） ※5月29日（金）は開館します。

職員による本の紹介特集

3

自宅で読める 不朽の名作をご紹介します

青空文庫（<https://www.aozora.gr.jp/>）で読める作品です。著作権が消滅した作品や著者が許諾した作品を公開しているインターネットの電子図書館です。たくさんの方の無償の働きで、無料で読むことができます。

「最後の一枚の葉」 オー・ヘンリー／著 結城浩／訳

所要時間 30分

重い肺炎を患うジョンジーは、窓の外に見える枯れかけた蔦の葉を眺め「あの葉が全て落ちたら、自分も死ぬ」と言い出すようになる。同じアパートに住む老画家のベーアマンは、それを聞くと「馬鹿げている」と罵る。その晩、葉を揺り落とすような激しい風雨が吹き荒れ…。

老画家の自己犠牲と人を思いやる気持ちを描いた、悲しく温かい作品です。こんなご時世だからこそ、改めて読んでみてはいかがでしょうか。

（本館 篠田）

「鳳来寺紀行」 若山牧水／著

所要時間 30分

「白鳥はかなしからずや～」の短歌で歌人として美しい名歌を詠んだ若山牧水ですが、紀行作家としてもたいへん情緒ある著作を残しています。『木枯紀行』『みなかみ紀行』が有名ですが、今回ご紹介するのは愛知県新城市にある「鳳来寺」を友人と訪れた旅を綴った紀行文をご紹介します。

険しい岩山に鬱蒼と茂る樹々、鳥の声、珍しい草花などについて知識のなさを悲しむ牧水に、共感することしきりでした。「ブッポウソウ」の鳴き声を眠い目をこすりながら待ち続ける牧水の様子に思わず笑みがこぼれてしまいました。

（本館 福井）

「源氏物語 01 桐壺」 紫式部／著 与謝野晶子／訳

所要時間 30分

源氏物語の最初の章です。高貴な家柄の出ではないのに、帝に誰よりも愛された桐壺です。それ故、他の妃達から妬まれ、元々病弱であったこともあり、男児を生んだ後に亡くなってしまいます。若宮は美しく成長して「源氏の君」又は「光る君」とも呼ばれ、何事にも秀でていました。その後、帝は桐壺にそっくりな藤壺を妃に迎えました。源氏の君は藤壺の宮に亡き母を重ね、やがて、それ以上の感情が芽生えてしまい…。壮大な源氏物語のほんのさわりですが、光源氏の孤独と苦悩はここからすでに始まっているのです。

（本館 饒村）

「日本名婦伝」 吉川英治／著

※作品によって異なります 所要時間 20～45分

『宮本武蔵』『新書太閤記』など多数の長編時代小説で有名な著者による、歴史上の女性にスポットをあてた作品。本能寺の変を境に激動の人生を送った明智光秀の娘・細川ガラシャや、豊臣秀吉が「さる」と呼ばれた頃から見初めて生涯尽くした寧々（太閤夫人）など、歴史に翻弄されつつもその人生を生き抜いた6人の女性が描かれています。

主だったエピソードだけを切り取った短い文章で読みやすく、歴史に興味を持つきっかけになるかもしれません。

（帷子分館 長江）

「地獄変」 芥川龍之介／著

所要時間 40分

平安時代に良秀という高名な絵師がいました。良秀には美しい一人娘がいます。大殿に気に入られ仕えています。良秀は返してもらうよういいます。そんな折、地獄変という襖絵を依頼されます。襖絵は完成手前までできましたが、本物を見ないと描けない良秀は、焼かれる牛車に乗った女性を見たいと大殿に、受け入れられます。しかしその焼かれる牛車に乗っていたのは…。

芸術を極めることの恐ろしさが描かれています。その気概は龍之介自身にも通じるところがあるのかもしれませんが。（帷子分館 濱口）

「手袋を買いに」 新美南吉／著

所要時間 10分

教科書の題材にも採用されたことがあるので、読んだことがある方も多いのではないのでしょうか。とある冬の日、冷たい雪で牡丹色になった子狐の手を見て、母狐は手袋を買ってやろうと思います。でも母狐は人間が怖いため買いに行けません。代わりに子狐の手を人間の手に変えてあげ、子狐は一人で山を降りて、町に手袋を買いに行くという内容のお話です。子どもも読めるやさしい内容ですが、大人が読んでもまた心に染み渡るやさしいお話だと思います。

ぜひ、親子で一緒に読んでもらいたいお話です。（本館 樫山）

「次郎物語 第三部」 下村湖人／著

所要時間 3時間

第五部まであります。主人公の次郎が幼少から青年になるまでの、長い物語です。お薦めしたいのは三部。次郎の中学生活からです。

初めての中学生活。信頼し尊敬できる教師との出会い、その逆にまったく尊敬できない能力の欠ける教師、潔癖な次郎はまともにぶつかり問題を起こします。綺麗ごとだけではすまない社会と、次郎はどうやって折り合いをつけるのか。先輩や友人に相談したり励まされたりしながら、次郎は成長していきます。（帷子分館 瀬尾）

「イワンの馬鹿」 レオ・トルストイ／著

菊池寛／訳

所要時間 1時間

主な登場人物は兵隊のシモン、肥満のタラス、馬鹿のイワン。この三人の兄弟を仲違いさせようと小悪魔、悪魔が攻撃を仕掛けてきます。シモン、タラスは策略にはまりますが、馬鹿のイワンだけは耐え抜き悪魔からアイテムをゲット。そのアイテムで王様になり一生懸命皆が働く国を作るお話です。働かざる者食うべからずな話ですが、イワンは温厚篤実な性格で、堅忍不拔な精神の持ち主である事がよく伝わり、本当に大切な事が再認識できます。（帷子分館 三浦）

「赤毛連盟」 コナン・ドイル／著

大久保ゆう／訳

所要時間 15分

名探偵シャーロック・ホームズが活躍する推理小説。物語は、ロンドンで質屋を営む赤毛の男のところにまいこんだ奇妙な儲け話。『「赤毛連盟」に会員が1名欠員したので募集する。仕事に対し週4ポンドの支給を受ける資格がある。』という広告を従業員に見せられ、面接に行き採用されます。暫く働いていましたが、ある日突然「赤毛連盟は解散した。」という張り紙が…。急なことで近くの事務所に聞いてまわるのですが、誰も連盟のことや雇い主のことを知る人はいませんでした。この謎を説いて欲しいとホームズの所に訪れます。（本館 溝口）

可児市メール配信サービス「すぐメールかに」
「図書館だより」配信中

可児市からの緊急メールなどを、お手持ちの携帯電話やパソコンにメール配信するサービスです。メニューの中に「図書館だより」があります。「sugumail.com」からの受信を許可する設定にしておいてください。

【登録方法】下記のメールアドレスに空メール（件名・本文に何も書かずに送るメール）を送信すると、仮登録メールが返信されます。その内容に表示されたURLにアクセスし登録ページにお進みください。

kani@sg-m.jp

※二次元バーコードの読み取りができる携帯電話をお持ちの方は、右のコードをご利用ください。



可児市立図書館ホームページ

<http://www.kani-lib.jp/>

スマート
フォン用
サイト



「図書館だより」2020年臨時増刊号 No.3

発行：可児市立図書館 住所：〒509-0214 可児市広見 570-5

電話：(0574) 62-5120 FAX：(0574) 62-5303

※開館などについての最新情報は、図書館ホームページや、「すぐメールかに 図書館だより」などでお知らせします。